

# 心豊かな世代が育つ

## 童話の里づくり 385

### ―シリーズ― あなたの人権・わたしの人権

「優先」から見えてきたもの

八幡中学校 三年

梶原 遙香

「初詣『ベビーカー自粛を』に賛否」の見出しの記事に目が止まりました。東京のあるお寺が「混雑する初詣で、ベビーカーの使用を控えてほしい」と掲示したことが話題となっていました。

このお寺は、車いすやベビーカー優先路を作り、車いすやベビーカーで参拝できるようにしていたそうです。

しかし、ベビーカー一台にファミリーが五人、十人とついできたり、元気な小学五年生くらいの子どもをベビーカーに乗せた親が相次ぐようになってきたらしいのです。

そのことで、他の参拝客が腹を立てて、寺側との小競り合いも起こったそうです。

そこで、寺は優先路に制限を設けま

したが、それでもお年寄りとの接触事故が起ってしまい、「警察からの要請」もあって、昨年から「ベビーカー自粛」の看板を出すことになったとのことでした。

また、この記事に関連して「車いす用トイレ」のことも話題になっていました。

「車いす用トイレ」は、障がいを持った方など他のトイレが使えない方のために、介助の方と一緒に入っても対応できるように広くしているそうです。

しかし、そのトイレを一般の人が頻繁に使用し、本来に必要としている人が使えないことが増えているようです。

私は、「優先」ということが気になり調べてみました。

多くの事例があることがわかりました。優先席、コンビニの車いす専用駐車スペース、バス優先レーン、ベ

ビーカー優先路など障がい者のためだけでなく、様々な面で多くの「優先」があることを知りました。

「優先」や「専用」は、障がいを持った方やお年寄り、病気などで自由の利かない方、体調の悪い方、妊婦さんなど多くの人のためにあるものです。

「優先」は、優先を必要な人が、必要な時に、当たり前に使えて、はじめてその役割を果たせると思いました。

以前、障がいを持った方が「健常者と同等に…」と話されているのをニュースで見ることがあります。

同等は、その人の状況に応じて、健常者と同じ暮らしができるための施設やサポートなどの環境が整備されてはじめて成り立つものだと思います。

しかし、今はまだその環境が整っていないとはいえません。

環境が整うことで、体の不自由な人をはじめすべての人が生活しやすい社会がやってくるのではないかと思います。

記事の出来事は、自分さえ楽ができれば、自分さえ良ければと思う人たちの行動が引き起こした問題ではないでしょうか。

また、「優先」を一部の人が「得」をすること、優先されない自分は「損」

をしたと感じているのかもしれない。

単に「優先」という言葉が強調されることなく、お互いの立場を思いやり、協力しあうことのできる社会が望ましい社会だと私は考えます。

だれもが普通の暮らしを、普通にできるようになるための第一歩、それが正しい「優先」なのではないでしょうか。

「差別」の反対は、「尊重」と言われています。相手の思いや存在を尊重できる社会になりたいですね。

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。

また、みなさんの投稿もお待ちしています。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを一二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して（匿名も可）、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届ください。

